

Ⅱ 第6回北洋漁場に関する水産海洋研究座談会

共 催 { 北洋資源研究協議会
水産海洋研究会

主 題 最近の漁海況の問題点について

日 時 昭和43年2月28日(水曜日)午前10時～午後6時

場 所 大日本水産会会議室(三会堂ビル8階)

コンピーナー 平野敏行(東海区水産研究所)

話題提供および討論

(1) 北太平洋冬季の気象から見た今春夏の気象および海況の見通し

根本 順吉(気象庁)

進士福太郎(気象庁)

(2) ベーリング海南東部における水塊分布とベニサケ等の分布回遊

藤井 武治(北海道大学水産学部)

(3) ベニザケ漁況について

花村 宣彦(東海区水産研究所)

討 論

吉光虎之助(大洋漁業株式会社)

(4) 1967年サケマス漁期前調査結果について

伊藤 準(遠洋水産研究所)

討 論

今沢 重克(日魯漁業株式会社)

(5) 環境研究に対する業界からの期待

吉原 英吉(日本水産株式会社)

討 論

伊藤 準(遠洋水産研究所)

(6) 総合討論

ベニザケ研究の集大成と云うかたちで、詳しく話題提供をしていただいた花村宣彦氏(現南西海区水研)からの原稿が未到着であつたことは、大変残念であるが、その代わりに、当日、日ソ漁業会議出発前日であつたため、御出席いただけなかつた佐野蘊氏(遠洋水研)から興味深い研究結果の寄稿(当日、伊藤準氏から紹介あり)を得ることができた。厚くお礼申し上げる。(コンピーナー)

1 海洋と気象 — 1963年と68年の類似を中心として —

根本 順吉 (気象庁)

最近の天候に関連したことで、大規模な海洋と気象の関連を示唆する2、3の事実をのべることにします。